

女性たちの反核の実践と思想 —ビキニ・原水禁運動・反原発—

(※講師の都合で10月は休講のため、全5回に変更しました)

第1回・被ばくと男性—ビキニ被爆者・大石又七の軌跡

2016年11月8日(火)



講師：石崎 昇子氏 (専修大学非常勤講師)

男性だけが被爆したビキニ事件をみると、「性としての男性」もまた女性と同様に放射能の人体への影響には敏感である。第五福竜丸乗組員大石又七氏は20歳で被爆し結婚や妻の出産で悩んだ。それを契機に「反核」の実践を始め、現在では原発廃止の行動も続けている。大石氏の生の軌跡を追い被ばくの恐怖は「性としての男性」にも強いことを示したい。

第2回・原水爆禁止運動から反原発へ—高度経済成長期の「主婦連合会」の動きにみる— 12月8日(木)



講師：山村 淑子氏 (近現代女性史研究者)

科学的裏付けを基にした「平和・いのち・くらし」をかかげて消費者運動を目指してきた主婦連合会は、1954年のビキニ被爆事件を契機に原水爆禁止運動を展開。一方、高度経済成長が生み出した公害とたたかう過程で原子力の平和利用や安全神話の言説に囚われなくなっていく。何故か。機関誌『主婦連たより』を手がかりにその要因を明らかにしたい。

第3回・いのちとくらしとふるさとを守る —鳥取県青谷原発阻止運動を担った地域婦人会—

2017年1月17日(火)



講師：金子 幸子氏 (名古屋短期大学元教授)

2011年3月11日までに全国で54基の原発が稼働していた。一方、原発立地を阻んだ地は30カ所以上あった(12年11月現在)。その1つが鳥取県の青谷原発阻止運動である。1970年代末から運動に立ち上がった地域婦人会は、市民グループとも連携して80年代初めには立地計画をほぼ食い止めた。本演題は同会の活動目標を示している。

第4回・いのちの未来に原発はいらない—能登半島の反原発運動と女性(志賀・珠洲) 2月16日(木)



講師：海保 洋子氏 (近現代女性史研究者)

能登半島は、1960年代に志賀・珠洲の2つの原発計画が浮上、北陸電力ははじめ3社から狙われた。前者は住民投票や女性たち地元の反対運動にも関わらず原発建設、後者は地域で暮らす女性たちがネットワークを駆使し実践行動により原発阻止に成功した。反原発運動関係の会誌、ビラ、「いのちのみら通信」、手記などを通して実践と思想を明らかにしたい。

第5回・自分たちの町のことは自分たちが決める—巻原発反対運動と女性— 3月16日(木)



講師：早川 紀代氏 (近現代女性史研究者)

1960年代末に東京電力と東北電力は新潟県に原発立地を計画した。前者は柏崎・刈羽に反対運動をおしきって原発を建設したが、巻町住民は東北電力や町議会に対し、2度の住民投票の実施など35年近く反対運動をつづけ原発建設を阻止した。この35年は女性をはじめ住民が自分たちの町のことは自分たちが決めるという民主主義を実現する過程であった。

期間 ● 2016年11月8日～2017年3月16日(毎月1回・13時半～15時半)

会場 ● 婦選会館(東京都渋谷区代々木2-21-11 ☎03-3370-0238)

受講料 ● 7,560円(税込み、全5回。1回毎は税込み1,620円、学生税込み4,300円。納入済みの受講料はお返しできません)
財団特別維持員 及び 総合女性史学会会員は7,020円(税込み)。

申込方法 ● 下記申込票をFAXかメールで主催宛お送り下さい。受講料は10月20日までにお払い込み下さい。

振込み先 三菱東京UFJ銀行 新宿中央支店(普)5562919 公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター

企画協力 ● 総合女性史学会

主催 ● 公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター FAX 03-5388-4633 Email fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp

お名前

ご所属

ご連絡先

